

横須賀市 市史資料 室通信 2



発行日
平成 31 年 (2019 年) 2 月 7 日
令和元年 (2019 年) 6 月 5 日改訂

発行者
横須賀市総務部総務課市史資料室
住所 神奈川県横須賀市上町 1-61
横須賀市立中央図書館内
電話 046-822-2077

本誌は印刷発行をしていません。市史資料室の
ホームページからダウンロードしてください。
☞ <https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/8150/shishi/shishi1-top.html>

《 資料紹介 》

市史資料室所蔵の軍事関係資料 及び民俗資料等の紹介

市史資料室 佐藤明生

市史資料室で保管する資料には、新横須賀市史編さん事業期間中（平成 12～28 年度）に収集したものに
加え、それ以前の「横須賀市資料室」時代に所蔵して
いたものがある。これらの資料は、古文書や歴史的公
文書、図書などの文字資料、絵葉書や写真、フィルム
などの画像資料が中心であるが、その他に、軍艦の進
水式や市の式典に関する記念品、軍服や記章など陸海
軍の装備品、日章旗（出兵時の寄せ書きされたものを
含む）、生活用品などの様々な物品類がある。

文字や画像以外の資料は、直接、新横須賀市史で取
り上げることは少なかったが、当時の市民や軍人、軍
港都市の様子を肉付けする資料として、大変興味深い
ものが含まれている。そこで、本稿では、軍関係の物
品類を中心にそれらの概要を紹介したい。

1 旭日旗・小旗

日露戦争戦勝後、その凱旋にあたり日本各地で凱旋
門が建設された。横須賀における凱旋門の実態は詳ら
かではないが、この小旗は、逸見に建設された凱旋門
に突き刺した装飾品であるという。その証拠に旗の軸
の下方は斜めにカットされ尖っている。

長さ 50cm 程のササの稈（茎）や枝を軸とする十六



旭日旗・小旗（個人寄贈）

条旭日旗の小旗で、紙製の旗のサイズは 34.5×25.0cm。
量産品のため丁寧な作りではない。

2 朱塗り木盃

2 点あり、どちらも漆塗り木製品である。

①は、横須賀市合併記念品。市制施行は明治 40 年
（1907 年）2 月 15 日で県下 2 番目。この時の市域は
横須賀町と豊島町合併後の新たな横須賀町に過ぎな
かった。その後、昭和 7 年に大横須賀構想のもとに周
辺町村の合併促進が市会で可決され、昭和 8 年 2 月 15
日に衣笠村と、同年 4 月 1 日に田浦町と合併した。こ
の盃は、内底に横須賀市章を配し、胴外縁には“田浦
衣笠合併記念・昭和八年四月三日・横須賀市”と記す。
口径 10.0cm、高さ 3.15cm。

②は、内底に海軍の錨と陸軍の五芒星に剣と盾から
なる在郷軍人会章があるもので、胴外縁には“帝國在
郷軍人会横須賀市分會”の銘が入る。付属する木箱に
は墨書で“大正十三年五月二十五日 在郷軍人横須賀
市分會寄贈”と記す。口径 9.3cm、高さ 3.15cm。



朱塗り木盃（個人寄贈）

3 軍艦進水記念品・文鎮

航空母艦「翔鶴」の進水に合わせて製作された無色
透明のガラス製品である。つまみ部分に「翔鶴」全体
像、本体前側に“昭和十四年六月一日 軍艦翔鶴進水
記念 横須賀海軍工廠”、後側に“大庭謹製”の陰刻
がある。大きさは 18.1×6.2cm、高さ 4.3cm。



軍艦進水記念品・文鎮（個人寄贈）

4 軍艦進水記念品・記念プレート

昭和 15 年の敷設艦「津軽」の進水記念品である。径 16.6cm、厚さ 1.0cm の円盤状を呈し、上部に紐を通すための張り出しが 2カ所ある。ガラス製品で内部が白色ガラス、表面を緑色透明ガラスが覆う。中央に大きく「津軽」の像、周縁に“つがる 紀元二六〇〇年 六月五日進水 よこすか”の陽刻が入る。



軍艦進水記念品・記念プレート(個人寄贈)

5 軍艦進水記念品・酒盃

4 点あり、いずれも磁器製。銘／大きさ（口径×高さ）は次のとおり。

- ① むつ〔内底〕、(大正) 九・五・三一 進水 横須賀〔高台内〕／5.30×2.95cm
- ② 軍艦大鯨進水記念・横須賀海軍工廠 8.11.16〔高台内〕／5.15×4.65cm
- ③ 軍艦鈴谷進水記念・横須賀海軍工廠 9.11.20〔高台内〕／5.00×4.50cm
- ④ 祝進水 昭和拾四年六月一日〔胴内縁〕、横須賀海軍工廠〔内底〕、賀茂鶴〔外面〕／5.15×4.65cm
“②”と“③”は年代も近く良く似たタイプである。“④”は“③”の記念文鎮と同様に航空母艦「翔鶴」の進水記念品で、これのみ酒造メーカー名が入る。

進水式は、海軍工廠だけでなく横須賀全体の記念行事で、くすだまが割れた場面を写した写真からは実に盛大に催されていた事が伺える。これが軍港都市の活力の源であったと言っても過言ではない。なお、進水式記念品は他に絵葉書の発行も恒例であった。



軍艦進水記念品・酒盃(個人寄贈)

6 各種記念酒盃

進水式以外にも公的な記念やプライベートな行事に合わせて作られた磁器製の酒盃があり、記銘入り酒盃が多様に用いられていたことが伺える。計 8 種あり、銘／大きさ（口径×高さ）は次のとおり。

- ① 歩兵、第一聯隊、満期記念、五芒星・桜・大砲〔内面全体〕、新倉〔高台内〕／7.9×2.8cm
- ② 祝秀君之新婚〔内底〕、小川八助竹馬之友〔胴内縁〕／7.7×2.9cm
- ③ 錨印〔内底〕、明治三十四年五月十二日掖濟會三浦支部總會記念〔胴外縁〕／8.1×3.3cm
- ④ 祝〔内底〕、久里濱村小學校増築記念〔胴外縁〕／6.9×3.0cm
- ⑤ 横須賀海軍下士官兵集會所 新館竣工記念〔胴外縁〕／5.7×3.1cm
- ⑥ 横須賀海軍下士官兵集會所 新館竣工記念〔胴外縁〕／5.6×3.1cm
- ⑦ 祝〔内底〕、横須賀軍港第六船渠起工式〔胴内縁〕／5.6×3.1cm
- ⑧ 月桂冠（錨印入りの“錨月桂冠”）〔内底〕、優等清酒 堀田本店〔胴内縁〕／5.8×2.8cm



各種記念酒盃(個人寄贈、左上から右下へ①→⑧)

7 錨印入りの漆塗り木箱と椀

21.2×12.2×5.05cm の漆塗り木箱 1 点と口径 9.6cm、高さ 6.0cm の漆塗り椀 2 点のセット。木箱は上蓋の内面中央に、椀は高台内に錨印が記される。製作年代等不詳。



錨印入りの漆塗り木箱と椀(個人寄贈)

8 奉公袋

奉公袋は、応召に備えて軍隊手牒などの必需品を入れておくもので、裏側に収容品目録が印刷されている（陸軍用）。大きさは 29.2×23.0cm。

また、これに附属した『奉公袋収容品ノ件隷下一般

へ通牒』には、より細かい収容品目録が掲げられており、さらに遺言書の書き方も示されている。



奉公袋(個人寄贈)

9 軍隊手牒

大きさは 12×8cm、厚さ1cm 程。43 枚の和紙を二つ折りにした和綴じ(86 頁分)。表紙は布製(国防色)。最初の 18 枚に「勅諭」と「勅語」(赤字)、19 枚目から 33 枚目までに「軍隊手牒ニ係ル心得」、「應召及出征時ノ心得」、「戦陣訓」、「本訓」が印刷され、34 枚目以降に「履歴」、「缺勤」、「罰科」、「給与通知事項」を記す体裁。他に1点、布表紙が茶褐色のものがある。



軍隊手牒(個人寄贈)

10 特殊潜航艇「甲標的甲型」1/50 模型

船首に魚雷発射管 2 基を備えた小型潜航艇の模型である。この潜航艇は、いくつかの試作を経て昭和 15 年 11 月に兵器に採用された。基本的には決死ではなく、母艦である潜水艦に回収される仕組みであった。全長 23.9m、最大径 1.85m、乗員 2 名。

この「甲標的甲型」は、真珠湾攻撃の際に海中からの攻撃に参加した。5 艇が配備されたが、湾内に突入し 4 艇が港内外で攻撃したものいずれも撃沈された。他の 1 艇は港外で座礁し、乗員 1 名は死亡、他の 1 名は捕らえられた(日本人兵捕虜第 1 号)。戦死した 9 人は、「九軍神」と讃えられた。



特殊潜航艇「甲標的甲型」1/50 模型(個人寄贈)

11 特殊潜航艇「甲標的丁型」1/50 模型

「蛟龍」と称する特殊潜航艇の模型である。「蛟龍」は甲標的甲・乙・丙型の性能向上を図るために開発されたもので、航続距離が増え、乗員は 5 名となった。全長 26.25m、最大径 2.04m。昭和 20 年 4 月に量産が計画され、翌 5 月に特攻兵器に採用された。海軍工廠に加え民間造船所でも建造が進められたが、未完成で終戦を迎えたものが多量にある。



特殊潜航艇「甲標的丁型」1/50 模型(個人寄贈)

12 戦艦「陸奥」の遺品

昭和 18 年 6 月 8 日に広島県柱島南西 2km で爆沈した戦艦「陸奥」の遺品である。本格的な引き揚げ作業は昭和 45 年に始まった。鉄及び真鍮製、全長 13.5cm、蓋部の径 9.4cm。



戦艦「陸奥」の遺品(個人寄贈)

13 高射砲弾片と弾頭

寄贈者からの情報では、共に昭和 20 年 7 月に採取したものである。

高射砲弾片は、日本軍の高射砲から発射された後、炸裂した砲弾の破片が屋根に落下したものという。“3”と“水”らしき陰刻が見られる。最大長 5.6cm、最大幅 1.8cm。

弾頭は 2 点で、米軍艦載機から発射された銃弾の弾頭部である。長さ 6.2cm、最大径 1.32cm を測る。



高射砲弾片と弾頭(個人寄贈)

14 横須賀みやげ・盆

鯛をかたどった 34×22cm ほどの大きさの木製盆で、中央に“横須賀みやげ”の文字と“記念艦三笠”が塗装を剥ぐ程度に薄く彫り込まれている。制作年代は不明だが、戦前のものと伝えられている。



横須賀みやげ・盆(個人寄贈)

15 横須賀みやげ・ハンカチ

朝鮮戦争前後、国連軍兵士に売られていた絹製のハンカチ。“SOUVENIR OF JAPAN”のプリントに花卉類が手描きされた5枚と芸妓や富士に軍人などが手描きされ、“鐵ぺい”の印のある4枚の2種類がある。大きさはまちまちで一辺 30～34cm。当時、スーベニアショップが数多く現れ、街角には臨時の店も出た。この世相を反映した便乗商品の一つであろう。



横須賀みやげ・ハンカチ(個人寄贈)

16 さいか屋の包装紙とチラシ

包装紙は、マゼンタ単色刷り(遠目にはピンク色)、78×54cm 程の大きさで、その中央に震災後の昭和3年に百貨店として開店した木骨鉄網コンクリート造3階建ての新店舗が印刷されている。

チラシは、紫系単色刷り、上部欠損(少なくとも8cm)、現存部での大きさは25.9×17.7cm。戦前期の歳末大売出しの様子を伝えるもので、各種衣料品を中心とした商品名が並ぶ。“クリスマスプレゼント賣出し”、美髪養毛液の宣伝では“マネキン嬢が説明”などあり、軍港都市の賑わいといったものが感じられる。“於四階”とあるが五階の表記が見当たらないことから、



さいか屋の包装紙(部分、個人寄贈)とチラシ

昭和9年に増築した鉄筋コンクリート造4階建ての店舗の開店(11月20日)以降で、しかも昭和12年には地下1階、地上5階建ての新店舗も増築されるので、それまでの時期のものかもしれない。

17 徳利

貧乏徳利と呼ばれるもので、いずれも陶器製。計5本あり、銘/大きさ(最大径×高さ)は次のとおり。

- ① 野比漁業組合 八百六号/13.3×25.3cm
- ② 大滝町 大塚商店 第百九十九/10.3×23.4cm
- ③ 下浦 新倉 八(やま)や店/13.0×25.5cm
- ④ フカウラ 平松屋/14.0×27.6cm
- ⑤ 長沢 “○にト” 二立入/14.0×26.8cm

酒を量り売りしていた時代のもので、酒屋名が記されるものが多い。客は買いに行く酒屋が限定され、徳利を提げて買いに来る客は店の宣伝になる。

さすがに貧乏徳利で酒を買った経験はないが、幼少期、近所の酒屋に「お酢を一合ください」と、つかいに行ったその情景なら蘇る。夕方、立ち飲み客でにぎわう中、店の主が木樽の栓をキュッとひねり、出てくる酢を一合枡で受け、漏斗を使って持参したガラス瓶に注いでくれる。昭和30年代後半の話である。



徳利(個人寄贈)

今回、近現代の資料を紹介したが、このほかにも陸海軍の軍服や記章といった装備品などもあるので、折を見て紹介していきたい。

【参考文献】

株式会社横須賀さいか屋 1964 『株式会社横須賀さいか屋社史』
(財)特攻隊戦没者慰霊平和記念協会 2003 『特別攻撃隊』
横須賀市 2006 『新横須賀市史 資料編・近現代Ⅰ』
横須賀市 2014 『新横須賀市史 通史編・近現代Ⅰ』

あとがき

市史資料室通信の第2号をお届けします。今号は、横須賀市立中央図書館との共催である「市史資料室所蔵資料ミニ展示会」(平成31年2月7日～3月27日)に合わせて、所蔵品の資料紹介とさせていただきます。

なお、本誌は印刷発行せず、ホームページからダウンロードしていただく方式により無償で頒布しています。